

私と母の「沖縄の魅力を再発見」の旅

宜野座村立宜野座中学校 3年生

翁長 真子

「真子、今年はどこに行こうか。」

私と母は毎年夏休みになると、一泊二日の沖縄観光に出かけます。私も母も沖縄生まれ・沖縄育ちの完全なウチナーンチュ。その二人で繰り出す小さな旅行。なぜ沖縄県内を旅するのでしょうか。そこには母の強い思いがありました。

「真子、沖縄の魅力を自分がわかっていないと人には伝えられない。お母さんは東京に進学した時、外に出て沖縄の良さに気付かされたよ。それを人に伝えるのはなかなか難しくてね。いつかはあなたも羽ばたく時がくるよ。ウチナーの魅力を中心に伝えられる人になってほしい。」母は沖縄の魅力を十分に伝えられなかったもどかしさを時々私に熱く語ります。

私が名付けた「ウチナー二人旅」は、母が作ったルールと共に私が小学二年生の時にスタートしました。我が家における旅のルールそれは

- 一、 沖縄の歴史や文化に触れること。
 - 一、 心で感じること。
 - 一、 思いっきり楽しむこと。
- です。

この旅では日常を過ごす地元宜野座村を離れてみると、知っていたつもりで気づかされるのがたくさんあり、その度に心も弾みます。なにより母と二人でワクワクを共感できる場所がこの旅の魅力の一つでもあります。車でドライブしながら移りゆく景色に時を忘れ心も安らいでいくのがわかります。

これまで「平和祈念公園・国際通り・公設市場・首里城」などに行きました。中学生になってからは観光スポットを旅しながら、私の志望高校の見学も旅の一つに加わりました。車内の母とのユンタクも自然と将来の話題へと移り、進学への意思もより鮮明になってきています。

この旅を振り返ってみて特に印象に残っている場所が、国際通りと公設市場です。まるで沖縄を写し出しているかのような色とりどりの新鮮な魚や個性的な野菜に豚のお肉、そして南国特有の乾物などが並びます。二階にあがるとそれらの食材を調理してくれる食堂もあります。沖縄のオジィやオバァがお店を切り盛りしているので、ウチナーンチュの私でも「ああ～やっぱり沖縄だなあ～。」と強く感じる場所です。

私は母に、「国際通りや公設市場の今と昔を比べて、変わったことはある？」と尋ねてみました。すると母は、「国際通りも公設市場も、昔はもっと

いろいろなお店があったよ。国際通りは地元の人と観光客の両方が楽しめる場所だったね。でも今はほとんど観光客向けのお店になってしまった。それでお店の数は減ってきていると思うよ。」と教えてくれました。今は、モノレールが通り、交通がとても便利になりました。そして便利な大型商業施設ができ、地元のお客さんがそこへ流れるようになったからだと私は考えました。

そして私は東京や大阪に行った時のことを思い出しました。東京や大阪にはディズニーランドやUSJなど遊園地がたくさんあります。大型商業施設もあります。また沖縄とは食材が違う食べ物や雰囲気異なる文化があります。けれども、私は都会のせわしく入れ替わる満員電車の旅に少し窮屈さを感じました。

母と私の自由な旅。沖縄には、どこまでも続く青い空、輝く海が悠々と広がっています。そんな母との旅を通して、私は沖縄の魅力を発見することができるのです。

沖縄の自然が作る空と山と海のグラデーション。母から「東京や大阪の海の砂浜は、珊瑚の砂じゃないから黒いんだよ。」と聞かされたとき、私は身近にある海の美しさに気づかされました。なぜなら、砂浜は白いというイメージしかなかったからです。

そんな沖縄では止まることのない開発や新たな「基地建設」が大きく取り沙汰されています。遠い昔からある自然を失うことは、沖縄のそれを残しそこで生きてきた先人達の思いも見失ってしまうのかもしれない。

太古の地球が育んだ沖縄の自然と、琉球王国の時代から受け継いできた独特の伝統文化を守り、そして生かすことが平和のつづく未来の沖縄につながるのだと思います。大好きな沖縄を守り継ぐために・・・。

私が描く未来の沖縄は、訪れた人がその独特の自然と風土を満喫し、国内や外国からの観光客だけでなく私達ウチナーンチュも楽しみを発見できることです。最近では多くの外国人が沖縄を訪れています。そこで、英語だけでなく多くの国の言葉を話すことができれば、沖縄の魅力をもっと伝えることができます。これからの沖縄を担う私達は沖縄の人や自然、そして文化から平和の意味について、伝える力を持つべきだと思います。

海に囲まれた島を巡る母との旅。沖縄は決して大きくはありません。ですが、その優しさ、歴史を見つめる強いまなざし、寛容に流れる時間を私は誇らしく思っています。そんな沖縄は私にとって「わたしらしく生き生きと過ごせる場所」です。

私と母の「ウチナー二人旅」はまだまだ続きます。みなさんもその魅力を切り拓くパイオニアの一人として、「沖縄の魅力を再発見の旅」へ出発してみたいかがでしょうか。